



友人との親密度と友人関係の築き方が 落ち込みの感情表出抑制に与える影響



荒木七海・佐々木麗葉・高橋柚羽

問題と目的

アルバイトでの失敗経験をして落ち込んだとき、友人が明るく話しかけてきたことがあった

伝えるか...?
伝えないか...?



→親密度と友人関係の築き方に着目した

<先行研究> 親密度と友人関係の築き方が悲しみの感情表出抑制に与える影響(小畑他, 2020)

- ・親友よりも知人のほうが表出抑制しやすい
- ・浅い付き合いであるほど表出抑制しやすい

<目的>

- ①友人との親密度による落ち込みの感情表出抑制の違い
- ②友人との親密度と友人関係の築き方による落ち込みの感情表出抑制の違い

<仮説>

- ①『親友』に対してよりも『友人』に対しての方が表出抑制をしやすい
- ②『親友』に対しては交友関係の深さが影響し、浅い方が表出抑制しやすい
『友人』に対しては交友関係の広さが影響し、広い方が表出抑制しやすい

方法

1.調査対象者：本学学生129名

2.質問紙構成：

- ①仮想場面の提示
- ②陰性感情抑制傾向尺度(檜村・岩満, 2007)から「抑うつ」に関する7項目(4件法)
→仮想場面に合わせて2項目の1部を変更
- ③友達とのつきあい方に関する尺度(落合・佐藤, 1996)から広さと深さに関する各4項目(7件法)

『親友』条件 = 66名
『友人』条件 = 63名

仮想場面

あなたは昨日のアルバイトで失敗をしてしまい、店長に怒られてしまいました。今日もアルバイトがあり、あなたは朝から落ち込んだ気持ちで大学に登校しました。すると、●●が明るく話しかけてきました。

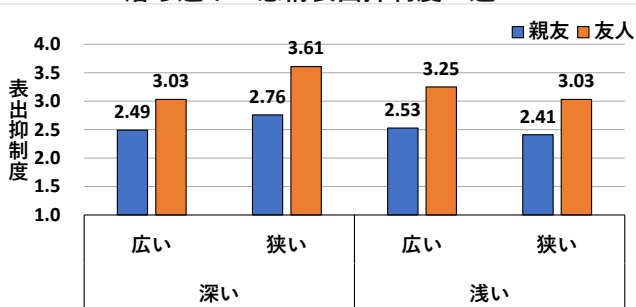
●●には以下を挿入

<親友条件> 親友

<友人条件> 挨拶をする程度の友人

結果

親密度と友人関係の築き方による
落ち込みの感情表出抑制度の違い



- 「親密度」の主効果が0.1%水準で有意($F(1,121)=25.14$); 『親友』 < 『友人』
- 「広さ」と「深さ」の交互作用が5%水準で有意($F(1,121)=4.85$)
→下位検定を実施
 - ↳友達との関わり方に関する姿勢が深い時に「広さ」の効果($F(1,121)=4.96, p<.05$; 広い < 狭い)
 - ↳自分が関わろうとする範囲が狭い時に「深さ」の効果($F(1,121)=5.96, p<.05$; 深い > 浅い)
- 深い人の中で広さに差があり、狭い人の方が表出抑制しやすい
- 狭い人の中で深さに差があり、深い人の方が表出抑制しやすい

考察

結果から..

- 『親友』に対してよりも『友人』に対しての方が落ち込みの感情表出抑制をしやすい
- 自分が関わろうとする範囲が狭く、なおかつ友達との関わり方に関する姿勢が深い人が落ち込みの感情表出抑制をしやすい

仮説①

先行研究と同様の結果に

友人に対しての場合、お互いに心を開いている関係性であるとは言い切れず、落ち込みの感情を表出することで相手に迷惑だと思われぬかを気にしたり、仮に表出した際の相手の反応を気にしてしまうのでは？

仮説②

先行研究とは異なる結果に

仮想場面で『親友』の設定を明示していなかったため、「一番仲の良い友人」など具体的に明示していれば、友人との親密度別において友人関係の築き方の違いによる落ち込みの感情表出抑制の違いが見られたのでは？